

主に取組目標①に関すること

こども・多世代・こども起点	こども起点で多世代につながるといった流れで聞いていたが、表現としては弱いと感じる。超高齢化と少子化が進んでおり、こども同士が接する機会が減っている。地域で幅広い世代の人とこどもが接する機会を促進していくには、<u>今の大人がこどもの時に学んだことや経験したことが、今のこどもはできていないといった説明が文章として必要ではないか。</u>
	自分たちがこどもの時と環境や状況が大きく異なるので、<u>今の大人が思っているこどものイメージは実際とかけ離れている可能性もある。まずは、大人が今のこどもを理解して、その上で支えること、その取組を行うために正当性を持たせることが必要。</u>そのためにも、世代間交流を通して、こどもや次世代に注力していくといった説明が必要。
	こどもの見守りと教育がとても大事だと思っている。<u>ただ現状では地域や大人が取り組む姿勢やその背中を見せていない</u>と思う。
	こどもと都合よく言葉を使っているだけで、大人から見たこどもではなく、一属性としての大人とこどもでどのように対応していくべきかを考えないと、こども起点が実現しない。<u>こどもの位置付けが対等になっているか、本当にこども起点になっているかを考えないといけない。</u>
教育	学校の位置付けについてもしっかり考えてほしい。（中略）教科を勉強するだけでは多様な要素が複雑に絡み合っている現代社会に対応できないと思う。その社会に対応するこどもを育てるには、<u>学校教育に地域社会がどれくらいコミットしていくか、こども達が学校以外でも学ぶ環境を作っていく必要がある</u>。学びの多様化については書いてあったが、その点も含めて学校の位置付けを真剣に考えてほしい。
	これまでの教育システムでは、<u>新産業を生み出していく上で必要な独創的な発想ができる人材を育成することは難しいのではない</u>かと思う。その上で、今後そのような人材をどう教育して育成していくかも考えていく必要がある。
	こどもたちが今後生活していく上で対応する方法を学ぶ場としては、<u>都市の先端技術だけが学びではない</u>と思う。

主に取組目標②に関すること

少子化・結婚・子育て 若者を選ばれるまち	若者の結婚や定住に関連するような施策を入れていかないと、問題意識に対してどう取り組んでいくかが見えてこないと思う。
	ミライ実現戦略2030の前段に、こどもの数の減少や、子を生み育てやすいまちづくりと記載されていることはよいが、「2 注力する視点」にも「子育て支援」を明確にうたった記述を追加したほうが良いのではないか。また、取組目標レベルに「安心して子どもを生み育てられるまち」を掲げるべきではないか。

少子化・結婚・子育て 若者を選ばれるまち（続き）	（山村において）Iターンで入ってきた家族は、こどもの数が多いと感じる。おそらく<u>自己実現、社会の中地域の中で役に立つという自己肯定感が見つけられると、人生が変わる</u>のだと思う。貨幣経済の中で人生を考えると、こどもを産むのは難しいが、そうでない社会で生きることを決めると価値観が変わってくるのではないか。 - 若者は人口減少を阻止するためにこどもを産むように仕向けられているのか、道具なのかと聞かれることが増えてきた。総合計画では、政策をとりまとめるのでそう受け止められる書きぶりになってしまう。（中略）<u>大切なのは、若者が今後どう生きるのか、どういう環境を作り社会を構成するのかということ。</u> - 子育て・出産等も含めたライフプランに関する知識を、義務教育段階で伝えていくことや、企業とも連携しながら、ライフキャリア形成に関わるサポート体制をつくっていくことはできないか。 - 職場の近くにこどもを預けられれば、就業時間が調整しやすくなる人もいるはずなので、在住だけでなく、在勤者の子を預かる体制も検討できないか。
	- 食糧生産や水のことを考えると、地域内での循環を考慮しておく必要がある。<u>自治について住民が自分たちの地域のことを考えていかないと上手く循環しない。</u> - 天変地異や大きな経済的な変化があった時に、<u>地域の自治が機能していなければ豊田市全体が立ち行かないものになってしまい</u>、こどもたちに未来を与えることができないと思う。 20代から40代等の若者を含めた<u>幅広い年齢層が自治区の役員となって、未来のまちを考えるまちづくりを担ってほしい。</u> - 働く場所があって、人が行き交いふれあうことで、元気に過ごせると思う。そのため活動がつながっていくことでまちづくり、地域づくりになると思う。<u>地域の小さな単位である自治区から発展しないと、まちは発展しない</u>と思う。大人は何もやっていない、してくれないというのがこどもの正直な意見だと思うので、<u>大人が真剣にまちのために取り組む背中を見せていくことが子どもの教育にもつながる</u>と思う。 - 人口減少の時代だからこそ、「地域自治の担い手＝住民票ベースの住民」だけでない形をつくり、評価・効果を可視化できる試みができると良い。 <u>課題解決に向けて、つながりが重要なのではなく、つながりを作るためのつなぎ役の人が大切</u>だが、そこには触れられていないと思う。つなぐ能力は持っているのに、つなぎ役に意識が向いていない人もたくさんいると思うので、どこかで触れてほしい。 - 関係人口づくりは、まちなかでも必要なことだが、中山間地域での関係人口づくりといったニュアンスが強いように見える。<u>関係人口づくりといった表現ではなく、関係人口の活躍や活躍促進の取組といった表記の方が実態と合うのではない</u>か。
外国人	外国人に対しての文言が少ないと感じる。（中略）<u>外国人の方も多いので、豊田市の担い手になってもらって、市民として、自己実現をしていく場として豊田市を選んで欲しいと思う</u>。そのためにも外国人居住者に対しての施策をもう少し位置付けてほしい。

（意見シートを通じて後日提出された主な意見も含みます）

主に取組目標③に関すること		
若者・女性の就労・多様な働き方		・ 転出の話もあったが、例えば日本人女性の製造業での雇用促進や、女性への新しい仕事を作っていくといったことまで踏み込んで書かないと変わらないと思う。
		・ どういう仕事を豊田市に作っていくかまで明記してはどうか。教育系、保育系の雇用促進を手厚くするなど、豊田市はもう少し教育都市として売り込むこともできるのではないか。<u>新しい仕事を作るという視点も施策には必要</u>だと思う。
		・ 若い女性がこどもを持つことがリスクだと感じるのは、女性の非正規職が多いということも影響していると思う。今後人口減少がさらに進む中で、生活環境を維持していくためには、若い女性たちに豊田市に来てもらうことが重要で、<u>子育て支援、結婚支援、女性の正規職雇用の増加等に取り組む必要</u>がある。人口減少が進む中で、民間企業も持続していくためには女性の雇用が必要。
		・ I T系の仕事がないから女性に選ばれないということではない。<u>豊田市が子育てをする環境として一番いいと感じてもらえる社会を民間と行政と社会で作っていくこと</u>で、若い女性の流出は止められるのではないか。
		・ 大企業に勤めるという生き方ではなく、<u>新しいモビリティを考える若い人たちがたくさんまちなかにいて、それを実現するソフト会社がたくさんあって、その中から新しい人が出てくる、そういう社会になってほしい</u>。まずそういったアイデアや意見を発表できる場やトライできる資金的な支援ということもぜひ考えてほしい。
人手不足・担い手		・ 大手企業でも働き手不足は顕著になっており、給与が良い、仕事が楽になったといった状況があっても人材は十分に確保できていない。外国人労働者に頼りつつあるのが現状。
その他		・ 施策体系の記述を見ると、「深化」よりも「進化」が適当ではないか。
		・ 事業者の持続可能性につながるKPIとして、「（一人当たり）の生産性向上」を設定すると良いのではないか。
主に取組目標④に関すること		
拠点連携型		・ 地球環境との共生、地球と人類の共生がこれから10年の一番大きな方向性。（中略）経済効率の観点からは集中型の方が良いのはもちろんだが、これからの地球環境のことを念頭に置くと<u>分散型をもう一度考え直すことが大切</u>。
		・ <u>分散型にすることで地震、災害による市全域の壊滅などは起きない。拠点が残ること</u>で、<u>復旧や復興への対応ができる</u>。
主に取組目標⑤に関すること		
拠点連携型 （続き）		・ 人口減少が進む中で、<u>各拠点がのんびんだらりと広がってしまうのは良くないので、各拠点に集約して各拠点で自立した生活が送れるようにすることが重要</u>。
		・ 都市構造については、今出ている案で良いと思うが、<u>重要なのはその拠点に若者が住んでくれるかどうかということ</u>。<u>そのために、産業の育成や地域自治についてしっかりと書く必要がある</u>。
中山間地域		・ <u>中山間地域も今のままではなく、新しい技術を開発、活用していくことで新しい仕事が生まれると思う</u>。種の開発が大切だと思っているので、遊休地を活用して研究してもいいのではないかと思う。
		・ 施策No.22「山村部を支える持続可能な暮らしの仕組みづくり」といった表現だと、今の集落や拠点の維持にはつながるが、<u>加算要素がないように見える</u>。
		・ 若者にとって中山間地域が魅力的に思えるようなこと、<u>若者を中山間地域の拠点に呼び込むようなことが必要</u>。これまでも拠点づくりのことは書いてあるので、その拠点づくりを支えることや相乗効果を生む活動につながるような表現が必要。
脱炭素・環境		・ 若い人が各拠点に入り込むようことが施策名等で前面的に出てくると市民にとって<u>もわかりやすい</u>と思う。
		・ 温室効果ガスについて、政府では2035年に60％削減（2019年比）を目標としているが、それでは1.5度のシナリオに合わないので、2035年に75％削減といった数字を出しているところもある。それくらい<u>構造的に変えていかないといけない状況</u>。
表現		・ キャッチコピーなど<u>意識に働きかける</u>ことがあれば、自分のまちや世界のために、自分のまちや世界のために、「気づく」「考える」だけでなく、「行動する」ことにつながると思う。
		・ 国ではネイチャーポジティブ経済への移行を提唱している。経済、自然と密接に関係した仕事をどう生み出していくか。（中略）<u>地域との関係性、自然志向を意識した地域社会を作っておかないと、自動車産業を軸としている豊田市にはどこかに危うさがある</u>と思う。
その他全体に関すること		
表現		・ 「〇〇人材」ということばは一般の方に十分伝わる表現か。また、産業人材・企業人材の使い分けが不明確ではないか。
		・ 「最適」や「確保」といった表現は、将来の不確実性が強いことも考えると、表現として強すぎるのではないか。
表現		・ 「多様」について、重要なワードであるが、使われすぎている印象なので、他の表現や、省略なども検討してはどうか。



日時：令和6年6月15日（土）午後1時～3時30分
場所：豊田市福祉センター ホール
参加者数：307名 ※登壇者・スタッフ除く
（会場参加者数：237人、YouTube同時視聴者数：70人、YouTube再生回数：1093回（6月24日時点））

1 第9次豊田市総合計画中間案について

第9次豊田市総合計画中間案について、リーフレット及び映像にて市民に周知を図り、人口減少社会における取組の方向性（こども起点等）を共有した。



2 パネルディスカッション（主な意見）

- 市民の知ろうとする力、行政の丁寧な情報発信が大切。
- 本市の資源やものづくりを生かして地域のつながりを作っていくことが必要。
- 人口減少の最先端である中山間地域の暮らしにおいて、子どもも大人も多様な役割を果たすことが活躍の機会となっている。
- 「つながる つくる」は能動的な言葉。つながりの連鎖が市民の主体性につながる。



3 質疑応答

- 高齢者クラブなど地域活動の運営に行政の伴走支援が必要。
- 社会や人がつながることができる場が必要。
- 不登校やLGBTQなど多様性に配慮した子育て環境が必要。
- 地域の祭りや子ども会がなくなっている課題に、何ができるか。
- こどもの頃からインクルーシブなまちづくりや教育が必要。国際基準で考えてほしい。

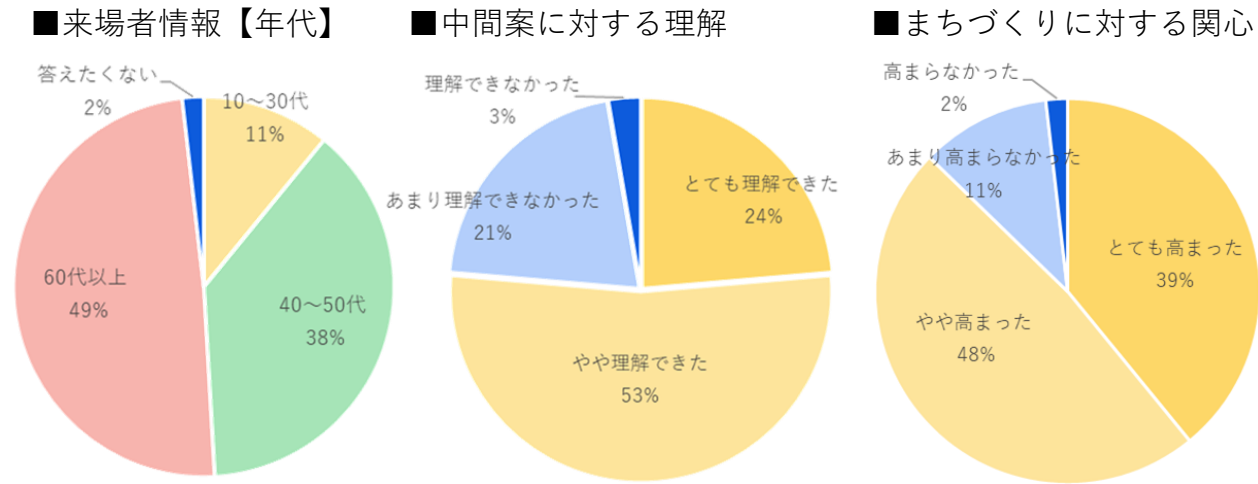


4 まとめ対談（牧野篤氏×豊田市長）

- 人口減少社会において、9総は社会変化に柔軟に対応する羅針盤。
- 便利な生活、お金でサービスを買う「豊かさ」ではなく、自然と共生し、暮らしやつながりを自らつくる「豊かさ」が大切。
- 高齢者の定義を75歳以上にする社会が大きく変わる。言葉を使う能力、課題を解決する力は、高齢でもつながりによりさらに伸びる。つながりの中で、次世代に伝え育む社会となるとよい。



5 アンケート集計結果 N=110



6 アンケート自由記述（抜粋）

総論	■人口減少や高齢化が進んでいく中、市民が受け身ではなく能動的にまちをつくっていく大切さが伝わってきました。
つながり	■つながりを大切にしたい人々もいれば、逆に苦手な人々も増加中の世の中。とはいえ、思いやりあえる地域、ふるさtoになるといい。
	■人は皆それぞれが尊重される存在として孤立させないよう豊田市民全員がつながり合えるようなまちになって欲しい。
	■こども、高齢者、ハンディを持った人たちとつながれる場をもっと持てるようになれば良い。
こども・子育て	■こども起点の施策に賛成。学校、社会、地域の総力戦の時代。これからの学びや教育を本気で取り組むべき。
	■子育て以前の出産とその後のサポートを充実させることも必要。
	■地域づくりをする上で、地域住民自身が自分たちの考えや行動が地域づくりにつながっているんだと実感できるような施策、取組が今後増えていくといいと思いました。
地域	■こどもたちが地域課題を知り、向き合う経験を積むことで、地域貢献する担い手として活躍することを期待。
	■自治区を運営する側の人材不足が課題。若い人の力が欲しい。
	■新たな将来を見据えた交通機関のネットワーク拡充が最大の課題と思う。
都市構造	■山間部の取組も合わせてお願いします。農地活用、林業の活性化、自然を生かした活動等行政と地域が両輪で進め、豊田市全体が魅力ある市にしたい。